

2021年「重点指導事項」は「フェアプレイ」と「スピードアップ」

1. アンフェアなプレイ（＝悪意のある行為）具体例

- ・（2塁）走者やベースコーチなどが捕手のサインを見て、打者にコースや球種を伝える行為。
- ・打者が捕手の構え（位置）を見る行為。
- ・打者がベンチに投球のコース及び球種を伝える行為。
- ・打者が死球を得るために投球を避けない（肘・膝を出す）行為。
- ・打者が盗塁を助けるために、捕手の送球直前にスイングする行為。
- ・投手が不自然な紛らわしい動作（首・自由な足の動き）で走者を迷わす行為。
- ・投手の2段モーション（投球動作中に一時停止）行為

2. テンポよく進める注意点

- ・投球を受けた捕手は速やかに投手に返球すること。
- ・これを受けた投手はただちに投手板を踏んで投球位置に就くこと。
- ・投球を逸した捕手は、敏速にその球を自分で処理する。
- ・打者は打順がきたら速やかにバッタースボックスに入ること。
- ・内野手は投手へ送るサインを簡単にすること。

3. マナーの徹底

- ・投球を受けた捕手がストライクに見せようとミットを動かす行為（フレーミング）はしないこと。
- ・グラブ、ミットのしめ紐は必ず結び、長くならないこと。（親指程度）
- ・ダッグアウト前面の防球ラバーフェンス上部に腕を載せないこと。
- ・相手を威嚇したり、罵声を浴びせたりする「罵倒ポーズ」はしないこと。
- ・投手はロジンバッグを投手板の後方に置き、丁寧に取り扱うこと。
- ・バッタースボックスなどの白線を故意に消さないこと。

4. 確認項目

- ・1人の投手が投球できる総数は1週間500球以内とする。
- ・申告故意四球を採用する。
- ・2段モーションについての規制がなくなりましたが、投球動作について高校野球では従来通りです。
- ・走者がフェアの打球にフェア地域で触れた場合は原則アウトになる。
- ・ホワイト（全体一色）スパイクとの混在は、今年度まで認められる。
- ・捕手（審判含む）用マスクのSG基準適合品使用を試合前に点検する。

その他事項は、2021年度「周知徹底事項」をお読みください（添付）